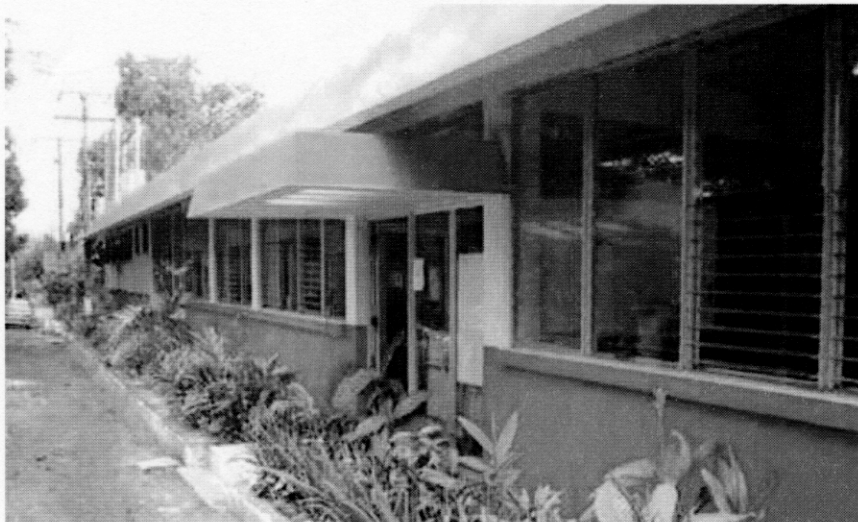




外務省での署名式



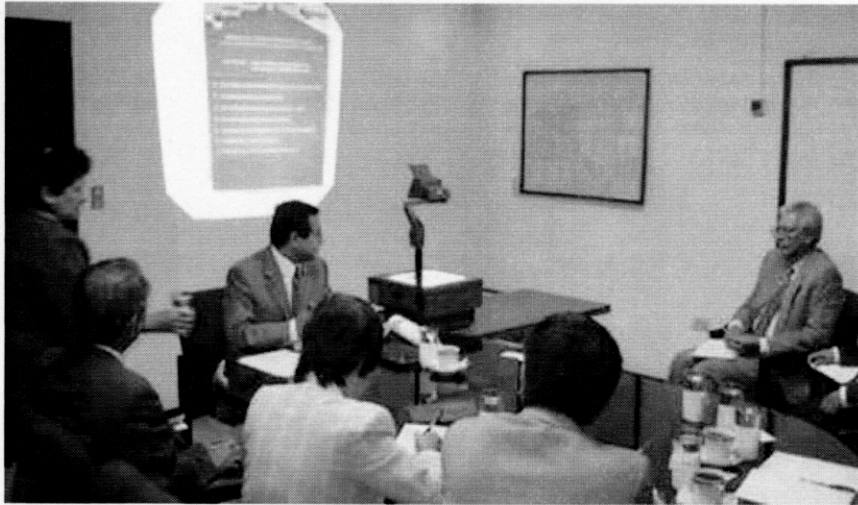
外務省での署名式



CENDEPESCA



中米統合機構（SICA）表敬



中米統合機構（SICA）表敬



大使館報告

目 次

序 文

プロジェクトサイト地図

写 真

第 1 章 実施協議調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-1-1 要請の背景	1
1-1-2 実施に至る経緯	1
1-1-3 実施協議調査団派遣の目的	2
1-2 調査期間及び団員の構成	2
1-3 調査日程	3
1-4 主要面談者	4
第 2 章 討議議事録の交渉経緯	6
2-1 基本計画	6
2-2 交渉の経緯	7
2-3 協議概要	7
2-3-1 農牧大臣表敬の際の大臣コメント	7
2-3-2 農牧大臣法律顧問のコメント	7
2-3-3 外務省のコメント	8
2-3-4 CENDEPESCA 局長とのプロ技の目的・活動の再確認	8
2-4 懸案事項	9
2-4-1 前進基地用地の確保	9
2-4-2 CREM の改修	9
2-4-3 ウエット・ラボの建設	9
2-4-4 カウンターパート（C/P）の確保	10
2-4-5 CREM へのアクセス道路	10
2-4-6 プロジェクト・コーディネーター	10

第3章 プロジェクト実施上の留意点	11
3-1 実施体制	11
3-1-1 センターの予算計画	11
3-1-2 活動体制	11
第4章 調査団長総括	12
「エ」国側組織図	13
エル・サルヴァドル沿岸湖沼域養殖開発計画・プロジェクト構成図	14

附属資料

実施協議議事録、TSI（英文、西文）	17
添付資料 - 1：CENDEPESCA 局長書簡「実施協議調査団の協議アテンド」	33
添付資料 - 2：CEDEPESCA 局長書簡「前進基地、C/P について」	35
添付資料 - 3：エル・サルヴァドル外務省の R/D 署名に関するプレスリリース	44
添付資料 - 4：エル・サルヴァドル政府機関組織図	49
添付資料 - 5：CENDEPESCA の調査団受入計画	50
添付資料 - 6：前進基地用地に必要な要件	55
添付資料 - 7：R/D に外務大臣が署名する旨の通知	57
添付資料 - 8：エル・サルヴァドル外務省法務局より海外援助局宛通知書	58
添付資料 - 9：前進基地用地を CENDEPESCA 特別活動費で購入する旨の通知	60
添付資料 - 10：前進基地用地見積もり	61
添付資料 - 11：購入手続きに必要な日数表	62

第 1 章 実施協議調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

1-1-1 要請の背景

エル・サルバドルにおいて漁業は、コーヒー、砂糖について第 3 位の輸出産業となっているが、近年沿岸漁獲量は頭打ちの状態になっている。沿岸漁業の殆どが零細漁業で、従事者も内戦時の避難民等も多く総じて貧困であり、労働環境も劣悪で長時間労働、収入低下、子供の就業による就学率の低下と言った社会問題も生じてきている。

これに対し「エ」国政府は水産部門の持続的開発、沿岸地域の雇用促進や食料自給率の向上を図るため零細漁業振興に取り組んでいる。

「エ」国東部沿岸域には、フォンセカ湾、ヒキリスコ湖沼を始めとする採貝・養殖に適した湖沼域が存在し、国内需要が高いアカガイ、カキの採集が行われているが、近年採集量の増加に伴い資源の枯渇が懸念され、一部輸入も行われるようになってきた。このような状況から、適正な貝類養殖技術の確立と持続的に利用可能な資源の確保・保護を図る必要性が高まっている。

1-1-2 実施に至る経緯

「エ」国は、零細漁民の直面している社会・経済的な問題を養殖技術の開発と導入、及び効率的な養殖技術の普及により改善するとともに、沿岸湖沼水域の生態系の保存に寄与し、漁村の振興を図ることを目的としたプロジェクト方式技術協力「エル・サルバドル沿岸湖沼域養殖開発計画」を我が国に対して要請してきた。

これを受け、我が国は本要請の内容確認及び先方実施体制を確認することを目的として、平成 11 年 9 月に事前調査団を派遣した。その結果、「エ」国農牧省水産開発総局（Centro de Desarrollo Pesquero : CENDEPESCA）を中心に沿岸湖沼域マングローブ域生態研究センター（Centro Regional de Investigación de Esteros y Manglares : CREM）を活動現場として、適切な貝類小規模養殖技術を開発するために必要な貝類養殖基礎技術の指導・移転及び人材育成を行う方向で検討する事となった。

平成 12 年 3 月に短期調査団を派遣し、先方実施体制（カウンターパートの配置、予算措置等）、活動計画案、機材計画等の調査、協議を行うとともに、その他の詳細情報の収集を行った。

1-1-3 実施協議調査団派遣の目的

事前、短期の各調査の結果を踏まえ、本プロジェクトの協力内容についてエル・サルヴァドル側と確認を行い、R/Dを取り交わす。併せて、協力実施のスケジュールについて協議を行い、暫定実施計画（TSI）を取り交わす。

1-2 調査期間及び団員の構成

調査期間：平成 12 年 8 月 20 日から平成 12 年 9 月 1 日までの 13 日間

団員構成及び T/R

団長 / 総括：上原盛毅（JICA 専門技術嘱託）

- ・調査団を代表して、エル・サルヴァドル側との協議にあたり、協議事項を総括する。
- ・R/D の署名を行う。
- ・必要に応じ先方機関に助言、提言を行う。

団員 / 水産行政協力：富安正蔵（農林水産省）

- ・本件協力の効果が、効率的に発現するようエル・サルヴァドル側の活動支援体制について、行政及び組織的側面からの適切な助言を行う。
- ・担当分野に関する報告書を作成する。

団員 / 計画管理：長谷川正浩（JICA 特別嘱託）

- ・事前調査、短期調査で指摘されたプロジェクトの実施体制に関する留意点について必要な補足調査を行う。
- ・担当分野に関する調査報告書を作成する。
- ・本調査が円滑に行えるように、先方機関、在外公館との調整を行う。

1-3 調査日程

日 順	日付	曜 日	行 程	内 容
1	8/20	日	東京(CO 006 便 15:50 発) ヒューストン(20th13:50 着) ヒューストン(CO 1427 便 20th15:45 発) サン・サルヴァドル(17:49 着)	移動
2	21	月	サン・サルヴァドル	JICA 駐在員事務所打ち合わせ、 日本大使館表敬、エル・サルヴァドル外務省等表敬
3	22	火		CENDEPESCA との協議、農牧省大臣表敬
4	23	水		CENDEPESCA との協議
5	24	木		CENDEPESCA との協議
6	25	金	トリウンフォ	CREM 及び前進基地用地調査
7	26	土	サン・サルヴァドル	生活・執務環境調査
8	27	日	サン・サルヴァドル	調査団内打ち合わせ、資料整理
9	28	月		CENDEPESCA との協議、R/D 署名、
10	29	火		中米統合機構訪問、JICA 駐在員事務所報告 日本大使館報告
11	30	水	サン・サルヴァドル(CO 1428 便 12:20 発) ヒューストン(16:24 着)	移動
12	31	木	ヒューストン(CO 007 便 12:00 発)	移動
13	9/1	金	東京(15:40 着)	移動

1-4 主要面談者

エル・サルヴァドル側

(1) エル・サルヴァドル外務省

海外協力局副局長：Sr. Jose Castellano

海外協力局担当官：Sra. Marina Alias de Miranda

(2) エル・サルヴァドル農牧省

農牧大臣：Sr. Salvador Urrutia Loucel

農務次官：Sr. Roberto Interino

政策決定室長：Sr. Eduardo Huidobro Macaya

(3) 水産開発総局 (CENDEPSCA)

局長：Mario González Recinos

JICA 担当コーディネーター：Reina Pacheco de d'Aubuisson

技師：Luis Salazar

技師：Elsy de Hernández

総務官：Antonio Barillas

企画主任：Francisco Campos

CREM 所長：Josa Israel Chavez

農牧開発庁：Dario Zambrana

(4) 中米統合機構

事務局長：Carlos E. Gutiérrez Luna

日本側

(1) 在エル・サルヴァドル日本大使館

特命全権大使：湯沢 三郎

二等書記官：小杉 清貴

(2) JICA エル・サルヴァドル駐在員事務所

所長：上島 篤志

企画調査委員：新地 貴博

(3) 在エル・サルヴァドル専門家

水産開発計画：高藤 行信

農産物流通：布施 幸秀

第2章 討議議事録の交渉経緯

2-1 基本計画

協力期間：平成13年1月15日から平成16年1月14日までの3年間

実施機関：エル・サルヴァドル共和国農牧省 水産開発総局

上位目標：キリスコ湾域における赤貝、カキ（在来種）及び導入種カキの生産が増加する。

プロジェクト目標：赤貝、カキ（在来種）及び導入種カキの基礎養殖技術が確立され、
CENDEPESCAのスタッフの貝類養殖に関する技術が向上する。

活動内容：

- (1) 養殖に関する基礎環境調査を行う。
- (2) モデル地域の社会・経済調査を行う。
- (3) 赤貝養殖の基礎研究を行う。
 - ・若齢から成熟期の組織学的、生態学的また生物学的研究を行う。
 - ・幼生期の組織学的、生態学的また生物学的研究を行う。
 - ・普及養殖技術の研究を行う。
 - ・養殖手法を改善する。
- (4) カキ養殖の基礎研究を行う。
 - ・若齢から成熟期の組織学的、生態学的また生物学的研究を行う。
 - ・幼生期の組織学的、生態学的また生物学的研究を行う。
 - ・普及養殖技術の研究を行う。
 - ・中間飼育を行う。
- (5) モデル地域における試験養殖・普及訓練を行う。
- (6) 貝類の市場流通システムの基礎調査及び助言を行う。
- (7) ハンドブック、マニュアル類を作成する。

日本側協力体制：

- ・長期専門家：4名
 1. チーフアドバイザー
 2. 業務調整
 3. 赤貝養殖
 4. カキ養殖
 5. 資源管理及び養殖環境調査
 6. 漁業組織調査及び市場流通システム

(専門家は 5 , 6 の分野を兼務)

- ・ 短期専門家：必要に応じ年間 2 名程度
- ・ 研修員受け入れ：年間 2 ~ 3 名程度
- ・ 供与機材：調査機器、音響機器、車両・ボート等

エル・サルヴァドル側協力体制：

- ・ カウンターパートの配置 (各分野 1 ~ 2 名の研究者又助手)
- ・ プロジェクトに必要な土地、建物、事務室その他 CREM の整備
- ・ 必要な運営費：人件費、施設維持管理費、活動費、機材引き取り輸送費等。

2-2 交渉の経緯

本件に関する協議におけるエ国側代表は、局長：Mario González Recinos、JICA 担当コーディネーター：Reina Pacheco de d'Aubuisson、技師：Luis Salazar、技師：Elsy de Hernández、総務官：Antonio Barillas、企画主任：Francisco Campos、農牧開発庁担当官：Dario Zambrana の 7 名である。

協議は日本側が先方に、JICA 駐在員事務所を通して非公式に送付したドラフトをもとに進められた。主要な協議内容は次のとおりである。

2-3 協議概要

2-3-1 農牧大臣表敬の際の大臣コメント

現在「エ」国は各省内に環境部門を設置しており、環境に関わる事業を行う際には環境室を通じ、環境省と連絡を取りながら実施している。漁業に関する事業は環境と関わる部分が多いため、禁漁区 (期) の設定等で環境省と密なる調整が必要である。

農牧省は効率的な資源活用のため、次の 3 本柱がある。

- ・ 新漁業法の施行：資源有効利用の活性化
- ・ 沿岸と沖合漁業の戦略の決定：漁業セクターに対する政策を明らかにする。
- ・ 農牧省の再編成：組織の活性化

CENDEPESCA は今後、漁業生産者の諮問機関を作り、エル・サルヴァドルの漁業セクターの強化を図る。

2-3-2 農牧大臣法律顧問のコメント

免税、特権、免責、優遇措置等に関し大蔵省及び外務省が既に議会にかかる準備をしており、問題は無い。またその他の内容についても外務、大蔵共に問題ないと言っている。

R/D の内容に関し、表紙にある標記について「両国政府にレコメンデーションを行う」となっているが、これはレコメンデーションを行いその結果何かが決定されたという事が R/D の後に必要になってくる様にも受け取れるので、他の決定事項である事を示す言葉の方が適当ではないか。今回の R/D については特に問題では無いが、これは法務担当の立場からのコメントである。

2-3-3 外務省のコメント

R/D の署名について

R/D に専門家の免税に関する事項は大蔵省の確認が必要であり、また特権免責事項等は農牧省の管轄外の事項があることから、外務大臣と農牧大臣の連名で署名を行う（外務大臣の署名が無いと議会承認が困難）。また、専門家の免税、特権免責事項等については、R/D が「エ」国議会で承認された後に有効となる（添付資料）。

2-3-4 GENDEPESCA 局長とのプロ技の目的・活動の再確認

エル・サルヴァドルは中米最大の貝類消費国であるが、養殖に関する知識・技術がまだ確立されていない。このため本プロジェクトで養殖技術の確立と雇用促進、貝採集漁民の生活向上さらに資源の維持管理を行いたい。またこれらを盛り込んだ新しい漁業開発政策を策定し 9 月 1 日付けで大統領より発表される旨の発言があった。

これに対し調査団からは：

- ・貝類養殖の基礎知識・技術の確立
- ・零細漁民が使える技術の確立
- ・市場、流通の可能性に関する基礎調査の実施

これらを持って、本プロジェクトでは貝類養殖に関する基礎的技術・知見の蓄積を行うと目的を説明した。

基本活動計画について、対象種の間育成となっているが最終段階まで行ってほしいとの要請があったが、本プロ技では基礎知識、基礎技術の確立を目的としているため、この 3 年間では行わない。しかし計画の達成度合いによっては、次の段階に進む事は可能であるため本プロ技では基礎的な事項を確実にいき、その結果を持って次の段階を考慮したいと説明した。

合同委員会メンバーにカウンターパートと JICA 駐在員事務所長も正式メンバーとし、必要な場合には委員会に出席する事とした。

これらにより、プロジェクトの基本事項について合意した。

この他、GENDEPESCA 局長よりトリウンフォを中・長期的視点で見た開発を行いたい。マングローブ、養殖、生態環境の総合研究を行いたい。これらの開発、研究はエル・サルヴァドル

だけでなく、中米の全体的視野に基づいた活動としていきたい旨の発言があった。

調査団は、極めて望ましい事であり、協力可能な部分に関しては積極的に支援していきたいと回答した。

2-4 懸案事項

2-4-1 前進基地用地の確保

短期調査において、調査団が推薦した土地を CENDEPSDCA が特別活動費（7万5千コロン = 約 94 万円）にて購入予定。8月23日付けで「エ」国大蔵省がこれを承認した（添付資料）。しかし予算執行の手続き上、支出まで約50日を要するため、実際の購入は11月頃となる見込み。

この場所には電話回線は無いが、携帯電話及び無線機が問題無く使用できる。また、電力は必要最低限の確保はできており非常用バックアップ電源として、発電器を設置する事で必要十分なものとなる。

2-4-2 CREM の改修

建物が全体的に劣化しており、包括的な改修が必要である。専門家の事務室、C/Pの事務室、ドミトリー等は内部の仕切り直しを行う。また電気配線、給排水等についても全体的に改修を行う。

電話回線の現在の1回線から2回線に増設するよう既に申請中であり、電話会社の民営化により早期の実現が可能と思われる。また携帯電話及び無線機も使用可能であるが、緊急時を考慮すると中継アンテナを設置する事で、問題なく使用できる様になる。

資機材供与に伴い、倉庫を一般倉庫と、精密機器類用倉庫の2つを増設する。

電気容量については、37KVAのトランスが2つと15KVAのトランスが1つ設置されているが、故障中の15KVAのトランスを37KVAの物に換装する。

これらの改修につき、基本計画はできているが、詳細設計はまだ完成しておらず、概算で8万コロン（約100万円）が必要となる。これは CENDEPESCA の予算と農牧省内の漁業関連の他の資金で実施するべく、準備中である。

2-4-3 ウエット・ラボの建設

用地が確保出来たら、建設に取りかかりたい。経費は約15万コロン（約190万円）程度と見込まれる。この経費も CENDEPESCA の予算と農牧省内の漁業関連の他の資金で実施するが、財政的な理由から若干の遅れを生じる場合もあり得る事を理解して欲しい。また、CENDEPESCA 営繕施設管理担当者からウエットラボの建設に付いて、砂地上への施設建設の経験が少ないこ

とから、機材の設置仕様を含み技術的なアドバイスが欲しい旨の申し入れがあった。

調査団は CREM の改修・ウエットラボの建設に関し、基本的には「エ」国側で実施する事を前提に考えるが、財政、予算的に厳しい状況も十分理解出来るので、出来るだけの支援は行うが、あくまで主体が「エ」国側であることを再確認した。

2-4-4 カウンターパート（C/P）の確保

プロジェクトに関わる、C/P は現在 CREM 研究所の所長、研究作業員に加え、大学で生物学を専攻した新卒者を 2001 年の予算で 5 名新規雇用する。この予算はすでに申請済みで、また C/P となる人間も決定している。

この 5 名の履歴書を入手した。

- ・ Manuel Antinio Hernández segura
- ・ Juan Salvador Gaviota González
- ・ Federico Ascencio Segovia
- ・ Ana Marlene Galdámez Castillo
- ・ María Gabriela Solano Avila

2-4-5 CREM へのアクセス道路

トリウンフォの町長が改修計画を持っており、今年度内に一次補修（道路の片側、側溝部分）を行い、来年度以降本格補修を行う意向であるが、予算的なことから実施の遅延が懸念されるため、国防省の重機を借り農牧省と国防省で行う事を検討中である。

2-4-6 プロジェクト・コーディネーター

CENDEPESCA 側より、このプロ技の実施を機会に、CENDEPESCA 内に日本との協力活動に関する総合的なコーディネーターを設置し、日本側との対応の窓口を一本化する。このコーディネーターが日本側のプロジェクト・コーディネーターC/P の一人となるとの発言があった。

調査団は極めて望ましい事と了承した。

第3章 プロジェクト実施上の留意点

3-1 実施体制

3-1-1 センターの予算計画

CENDEPESCA 全体の予算として 2001～2003 年のプロジェクト予定期間で約 185 万コロンが申請されている。2000 年に関しては当初プロジェクト開始を 11 月と想定して、年内 2 ヶ月分の 138,526 コロンが要求されたが、R/D で 2001 年 1 月開始となったことからこの予算は施設改修などの準備作業に使用されることとなる。

Detalle	2000 (2meses)	2001 (12meses)	2002 (12meses)	2003 (12meses)	Total
1.-Salarios personal contraparte (C/P 人件費)	30,000	216,000	252,000	288,000	786,000
2.-Aportaciones AFP (拠出・分担金)	2,250	16,200	18,900	21,600	58,950
3.-Salarios personal de apoyo administrativo y logístico (事務所人件費)	28,416	170,496	170,496	170,496	539,904
4.-Viáticos personal contraparte (C/P 旅費)	3,360	20,160	20,160	20,160	63,840
5.-Combustible y Lubricantes (燃料費)	2,000	12,000	12,000	12,000	38,000
6.-Servicios básicos(alumbrado, teléfono y agua) (光熱費)	20,000	120,000	120,000	120,000	380,000
7.-Adecuación de infraestructura (基盤整備費)	50,000	50,000	-	-	100,000
8.-Artículos para oficina (事務用品など)	300	1,800	1,800	1,800	5,700
9.-Reproducción de documentos (書類コピー製本費)	200	1,200	1,200	1,200	3,800
10.-Imprevistos (予備費)	2,000	5,000	5,000	5,000	17,000
Total	138,526	612,856	601,556	640,256	1,993,194

3-1-2 活動体制

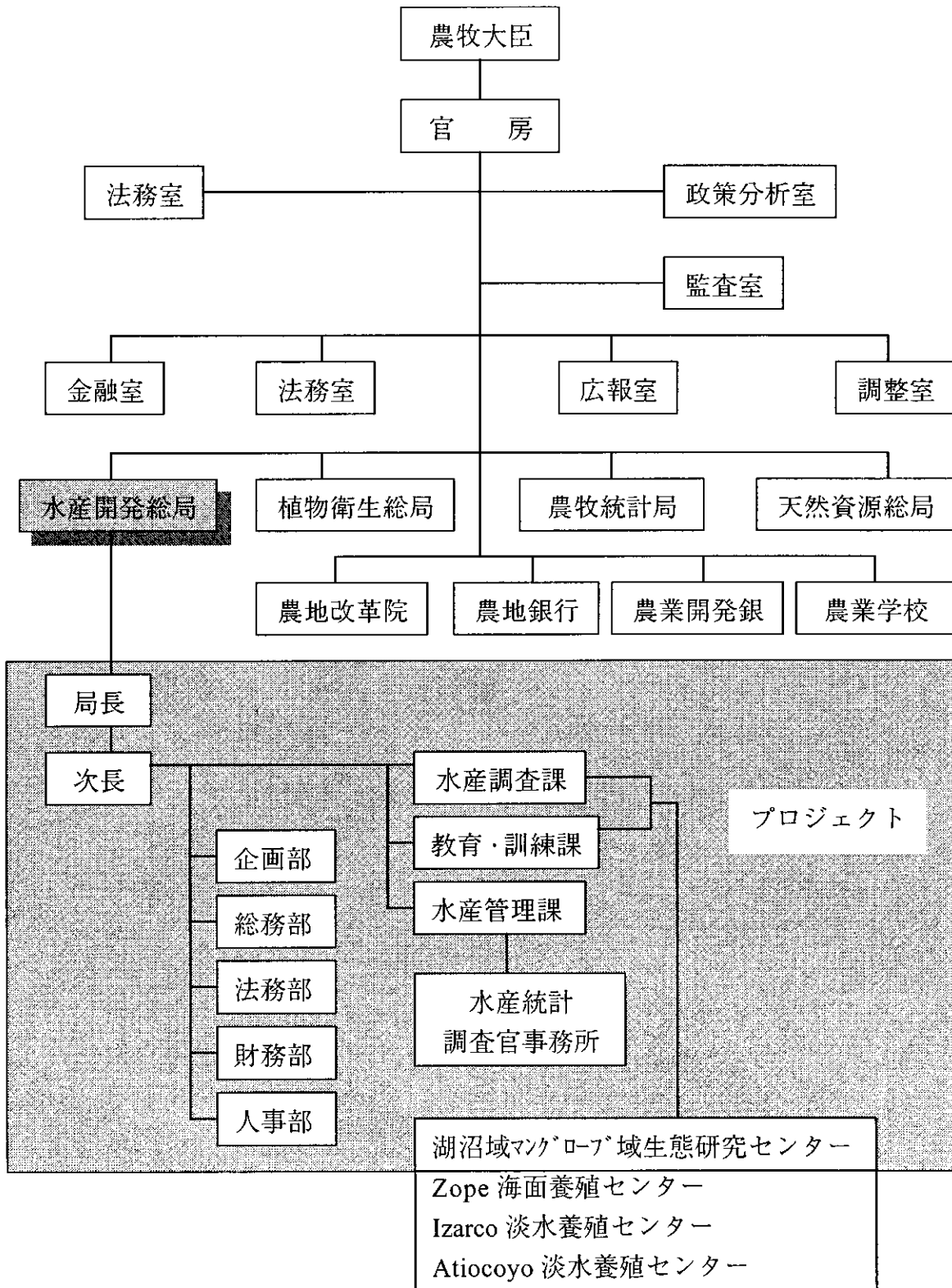
ウエットラボの建設の段階から裨益対象となる貝採集漁民とウエットラボ用地周辺住民に対し、プロジェクトの目的、意義、内容などを理解させると共に、技術移転に積極的な参画を促す。

また、CREM と貝採集漁民が活動の主体者であることを認識させることにより、漁民と CREM、CENDEPESCA の行政側とのコミュニケーションを活性化し、盗難防止対策や試験養殖区域の優先利用を確認する。

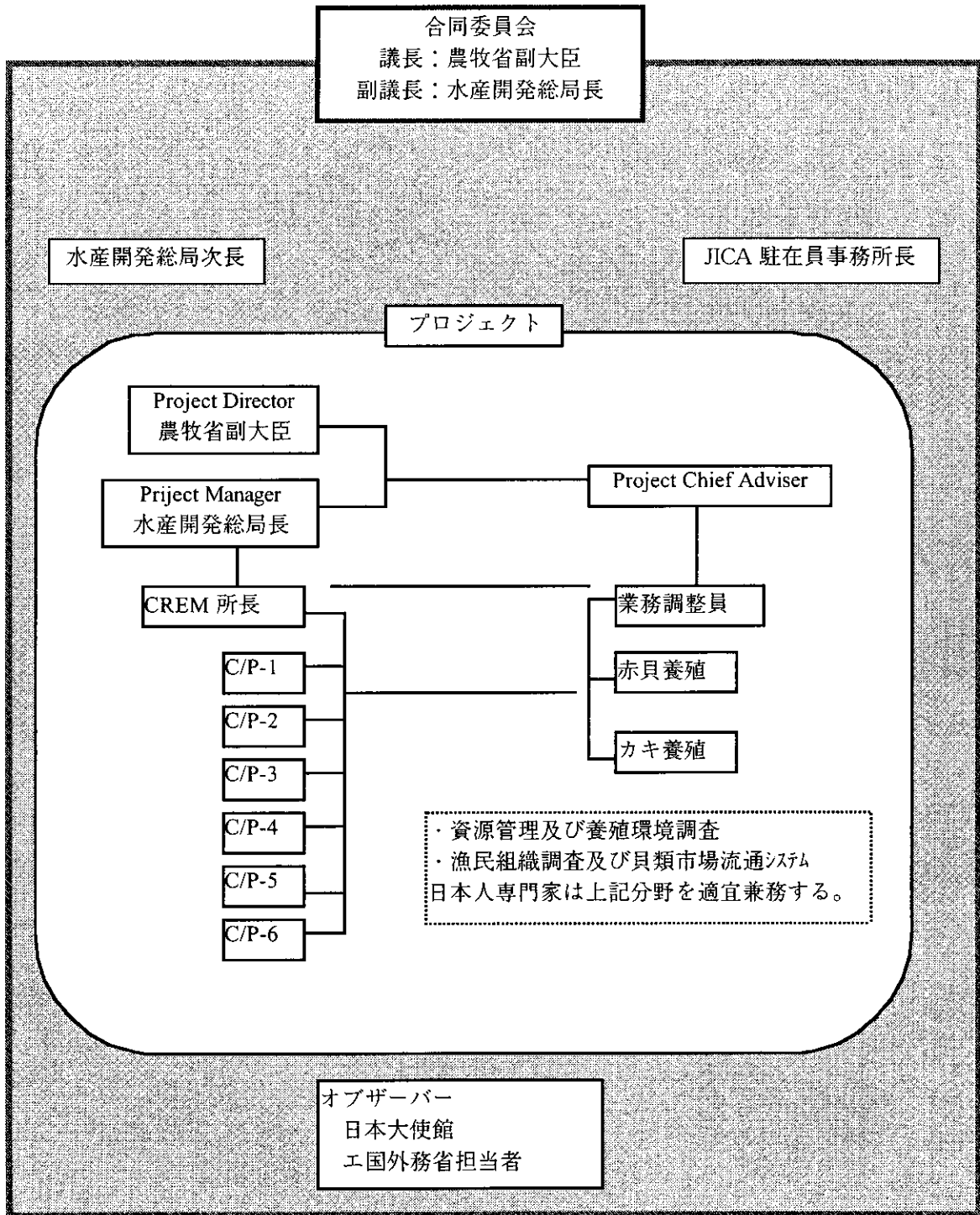
第4章 調査団長総括

1. 事前調査及び短期調査において、充分調査、協議がなされたことにより、基本的な合意が形成されていたので、R/D 案について逐条審議を行ったが、ほぼ日本側の原案通りとし、署名を了した。
2. 調整事項は先方の署名者に農牧大臣を予定していたところ、正に外務大臣、副に農牧大臣となったことであるが、エル・サルヴァドル政府内の正式な合意がなされたものとして日本側にとっても歓迎すべきことである。また、合同委員会メンバーに工側のプロジェクトコーディネーター（先方が正式に任命）を加えたことは円滑な事業の実施に役立つものと期待される。
3. 工側はこの後、R/D について国会の承認を得る必要があるが、通常2ヶ月を要すると言われている。それに基づいて A1、A4 フォームが提出されることになるが、調査団は農牧大臣の署名済みのアドバンスコピーを入手したので、国内手続を進めることが可能となろう。
4. 水産開発局（CENDEPESCA）のマリオ・ゴンザレス新局長は中米統合機構（SICA）事務局の漁業部門の委員も兼任しており、経歴、意欲、信頼度共に申し分ないと言えよう。
5. 本プロジェクトが今回は基礎的技術の確立であり、その成果を踏まえて沿岸漁民に対する養殖技術の本格的な普及計画が組み立てられることは充分理解し、土地の手当て、CREM の改修、C/P の配置等を早急に準備する旨発表が CENDEPESCA 局長からあった。

「エ」 国側組織図



エル・サルヴァドル沿岸湖沼域養殖開発計画・プロジェクト構成図



附 属 資 料

実施協議議事録、TSI（英文、西文）

添付資料 - 1：CENDEPESCA 局長書簡「実施協議調査団の協議アテンド」

添付資料 - 2：CEDEPESCA 局長書簡「前進基地、C/P について」

添付資料 - 3：エル・サルヴァドル外務省の R/D 署名に関するプレスリリース」

添付資料 - 4：エル・サルヴァドル政府機関組織図

添付資料 - 5：CENDEPESCA の調査団受入計画

添付資料 - 6：前進基地用地に必要な要件

添付資料 - 7：R/D に外務大臣が署名する旨の通知

添付資料 - 8：エル・サルヴァドル外務省法務局より海外援助局宛通知書

添付資料 - 9：前進基地用地を CENDEPESCA 特別活動費で購入する旨の通知

添付資料 - 10：前進基地用地見積もり

添付資料 - 11：購入手続きに必要な日数表

**RECORD OF DISCUSSIONS BETWEEN JAPANESE
IMPLEMENTATION STUDY TEAM AND
AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF EL SALVADOR
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT ON AQUACULTURE DEVELOPMENT IN
ESTUARINE AREAS**

The Japanese Implementation Study Team (hereinafter referred to as “the Team”), organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and headed by Mr. Seiki UEHARA, visited the Republic of El Salvador from August 20, 2000 to August 30, 2000 for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Project on Aquaculture Development in Estuarine Area (hereinafter referred to as “the Project”) in the Republic of El Salvador.

During its stay in the Republic of El Salvador, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Salvadorean authorities concerned with respect to desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the above-mentioned Project.

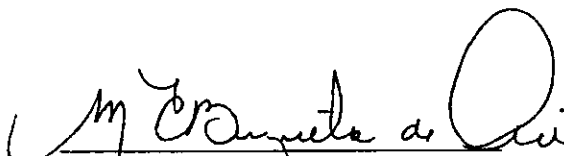
As a result of the discussions, the Team and the Salvadorean authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Done in duplicate in English and Spanish languages, respectively, each text being equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

San Salvador, August 28, 2000

上原 盛教

Mr. Seiki Uehara
Leader
Japanese Implementation Study Team
Japan International Cooperation Agency
Japan



Mrs. Maria E. Brizuela de Avila
Minister
Ministry of Foreign Affairs
Republic of El Salvador



Mr. Salvador E. Urrutia Loucel
Minister
Ministry of Agriculture and Livestock
Republic of El Salvador

ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of the Republic of El Salvador will implement the Project on Aquaculture Development in Estuarine Areas (hereinafter referred to as "the Project") in cooperation with the Government of Japan.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in Annex I.

II. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN

In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take, at its own expense, the following measures through JICA according to the normal procedures under the Technical Cooperation Scheme of Japan.

1. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

The Government of Japan will provide the services of the Japanese experts as listed in Annex II.

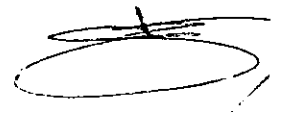
2. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

The Government of Japan will provide such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") necessary for the implementation of the Project as listed in Annex III. The Equipment will become the property of the Government of the Republic of El Salvador upon being delivered C.I.F.(cost, insurance and freight) to the Salvadorean authorities concerned at the ports and/or airports of disembarkation.

3. TRAINING OF SALVADOREAN PERSONNEL IN JAPAN

The Government of Japan will receive Salvadorean personnel connected with the Project for technical training in Japan.

III. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF EL SALVADOR



1. The Government of the Republic of El Salvador will take necessary measures to ensure that the self-reliant operation of the Project will be sustained during and after the period of Japanese technical cooperation, through the full and active involvement in the Project by all related authorities, beneficiary groups and institutions.
2. The Government of the Republic of El Salvador will ensure that the technologies and knowledge acquired by the Salvadorean nationals as a result of Japanese technical cooperation will contribute to the economic and social development of the Republic of El Salvador.
3. The Government of the Republic of El Salvador will grant in the Republic of El Salvador privileges, exemptions and benefits as listed in Annex IV and will grant privileges, exemptions and benefits no less favorable than those granted to experts of third countries or international organizations performing similar missions to the Japanese experts referred to in II-1 above and their families.
4. The Government of the Republic of El Salvador will ensure that the Equipment referred to in II-2 above will be utilized effectively for the implementation of the Project in consultation with the Japanese experts referred to in Annex II.
5. The Government of the Republic of El Salvador will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by Salvadorean personnel from technical training in Japan will be utilized effectively in the implementation of the Project.
6. In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of El Salvador, the Government of the Republic of El Salvador will take necessary measures to provide at its own expense:
 - (1) Services of the Salvadorean counterpart personnel and administrative personnel as listed in Annex V;
 - (2) Land, buildings and facilities as listed in Annex VI;
 - (3) Supply or replacement of machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the Equipment provided through JICA under II-2 above;
 - (4) Means of transport and travel allowances for the Japanese experts for official travel within the Republic of El Salvador; and
 - (5) Suitably furnished accommodations for the Japanese experts and their families.
7. In accordance with the laws and regulations in force in the Republic of El Salvador, the



Government of the Republic of El Salvador will take necessary measures to meet:

- (1) Expenses necessary for transportation within the Republic of El Salvador of the Equipment referred to in II-2 above as well as for the installation, operation and maintenance therefore;
- (2) Customs duties, internal taxes and any other charges imposed in the Republic of El Salvador on the Equipment referred to in II-2 above; and
- (3) Running expenses necessary for the implementation of the Project.

IV. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

1. The Vice-Minister of the Ministry of Agriculture and Livestock, as the Project Director, will bear overall responsibility for the administration and implementation of the Project.
2. The Director General of the Fisheries Development Center (hereinafter referred to as "CENDEPESCA"), as the Project Manager, will be responsible for the managerial and technical matters of the Project.
3. The Japanese Chief advisor will provide necessary recommendations and advice to the Project Director and the Project Manager on any matters pertaining to the implementation of the Project.
4. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the Salvadorean counterpart personnel on technical matters pertaining to the implementation of the Project.
5. For the effective and successful implementation of technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee will be established whose functions and composition are described in Annex VII.

V. JOINT EVALUATION

Evaluation of the Project will be conducted jointly by the two Governments through JICA and the Salvadorean authorities concerned, at the middle and during the last six months of the cooperation term in order to examine the level of achievement.



VI. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of the Republic of El Salvador undertakes to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in technical cooperation for the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Republic of El Salvador except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.

VII. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with, this Attached Document.

VIII. MEASURES TO PROMOTE UNDERSTANDING OF AND SUPPORT FOR THE PROJECT

For the purpose of promoting support for the Project among the people of the Republic of El Salvador, the Government of the Republic of El Salvador will take appropriate measures to make the Project widely known to the people of the Republic of El Salvador.

IX. TERM OF COOPERATION

The duration of technical cooperation for the Project under this Attached Document will be three (3) years from January, 15th. 2001.



ANNEX I MASTER PLAN

1. Overall Goal

Production of Anadara, the local oyster, and the introduced oyster is increased at communities in Jiquilisco Bay.

2. Project Purpose

Basic culture technologies of Anadara, the local oyster and the introduced oyster are verified and the technical capability of CENDEPESCA staff regarding shell culture is improved.

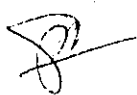
3. Output of the Project

- (1) Basic biological and ecological conditions of Anadara and the local oyster are clarified.
- (2) Basic reproduction technologies of Anadara, the local oyster are examined at a laboratory.
- (3) Basic culture technologies of Anadara, the local oyster and introduced oyster are established
- (4) Technical capability of Salvadorian C/Ps is improved.
- (5) Dissemination of basic culture technologies is examined in model communities.

4. Activities of the Project

- (1) Renovation of Regional Center for Research of Estuary and Mangrove (hereinafter referred to as "CREM") facilities and equipments
- (2) Environmental monitoring for aquaculture (water quality, temperature, etc.,).
- (3) Social and economic survey on model communities.
- (4) Basic study for Anadara culture.
 - Study on the juvenile to adult stages morphology, ecology and biology.
 - Study on the larval stage for morphology, ecology and biology.
 - Study on experimental culture.
 - Culture method improvement.
- (5) Basic study for local and introduced oyster culture.
 - Study on the juvenile to adult stages for morphology, ecology and biology.
 - Study on the larval stage for morphology, ecology and biology.
 - Study on experimental culture.
 - Intermediate harvest
- (6) Implementation of experimental culture and dissemination of technologies at model communities.
- (7) Basic survey and advice for marketing of shells.
- (8) Development of manual for shell culture technologies.
- (9) Preparation of final report.

When the Master Plan should be modified due to changing conditions of the Project, both Governments will agree to and confirm the modification by exchanging Minutes.



ANNEX II LIST OF JAPANESE EXPERTS

1. Long-term experts : 4 persons

(1) Chief advisor

(2) Coordinator

(3) Experts in the following fields:

a. Anadara culture

b. Oyster culture

c. Environmental survey and fishing resources management

d. Fishing community survey and marketing of shells.

(Note: some experts will concurrently serve in other fields)

2. Short-term experts

Fields of community organization, marketing and others.

(Short-term expert(s) will be dispatched when the necessity arises for the smooth implementation of the Project within the framework of the Master Plan.)



ANNEX III LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT

The following equipment necessary for the implementation of the Project will be provided by the Government of Japan within the budgetary limitations.

1. Equipment for investigation activities.
2. Equipment for cultivation activities.
3. Audiovisual equipment.
4. Equipment for training activities.
5. Communications equipment.
6. Vehicles and their spare parts.
7. Boats and their spare parts.
8. Other equipment and materials necessary for the implementation of the Project.



ANNEX IV PRIVILEGES, EXEMPTIONS AND BENEFITS FOR JAPANESE EXPERTS

1. Exemptions from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with living allowances remitted from abroad.
2. Exemptions from import duties and any other charges in respect of personal and household effects (including vehicles) which may be brought into the Republic of El Salvador from abroad.
3. In case of accident or emergency, the Government of the Republic of El Salvador will extend assistance through all available means to obtain medical and other necessary assistance for Japanese experts and their families.
4. The Government of the Republic of El Salvador will issue identification cards to the experts and their families to secure the cooperation of all governmental organizations necessary for the performance of the duties of the experts.



ANNEX V LIST OF SALVADORIAN COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONAL

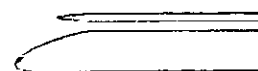
1. Project Director (Vice Minister, Ministry of Agriculture and Livestock)
2. Project Manager (Director General of CENDEPESCA)
3. Counterpart personnel in the following fields:
 - (1) Biology of Anadara
 - (2) Biology of oyster
 - (3) Community development
 - (4) Other related fields in accordance with the fields of short-term experts
4. Administrative and support personnel
 - (1) Administrative personnel
 - (2) Secretaries
 - (3) Drivers
 - (4) Other necessary support personnel



ANNEX VI LIST OF LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land, buildings, and facilities necessary for the implementation of the Project
2. Rooms and space necessary for the installation and storage of the Equipment provided
3. Office space and necessary facilities for the Chief Advisor, Coordinator, and other Japanese experts
4. Electricity and communication facilities
5. Other land, buildings, and facilities necessary for the implementation of the Project (Renovation of CREM, necessary infrastructure of the wet laboratory, which is mentioned in Annex-IV of the minutes of understanding for supplementary study signed at March 23, 2000)

If El Salvador side fails to prepare above mentioned preparation on schedule, it is possible to delay the start of the Project.



ANNEX VII JOINT COORDINATING COMMITTEE

1. Function

The Joint Coordinating Committee will meet at least once a year and whenever necessity arises, and work:

- (1) To appraise the annual work plan for the Project;
- (2) To review the annual activities of the Project;
- (3) To review and exchange views on major issues arising from, or in connection with, technical cooperation;
- (4) To examine the local budget-draft and staffing necessary for the Project; and
- (5) Others.

2. Composition

- (1) Chairperson: Vice Minister, Ministry of Agriculture and Livestock.
- (2) Vice Chairperson: Director General, CENDEPESCA.
- (3) Members:

Salvadorean side:

- Project coordinator, CENDEPESCA.
- Chief, CREM.
- Counterparts to the Japanese experts, as needed.
- Other personnel concerned with the Project appointed by the Chairperson, as needed.

Japanese side:

- Chief advisor.
- Project coordinator.
- Experts assigned to the Project.
- Resident Representative, JICA/JOCV El Salvador Office.
- Other personnel concerned to be dispatched by JICA if necessary.

NOTE:

Official(s) of the Embassy of Japan in El Salvador and Ministry of Foreign Affairs in the government of El Salvador may attend the Joint Coordinating Committee as observer(s).



**TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION
OF THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION PROGRAM
FOR THE PROJECT ON AQUACULTURE DEVELOPMENT IN
ESTUARINE AREAS**

The Japanese Implementation Study Team (hereinafter referred to as "the Team") concerned with the Project on Aquaculture Development in Estuarine Areas (hereinafter referred to as "the Project"), organized by the Japan International Cooperation Agency, and the authorities concerned of the Government of the Republic of El Salvador have jointly formulated the Tentative Schedule of Implementation of the Project as annexed hereto.

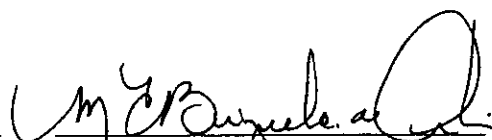
The schedule has been formulated in connection with the Record of Discussions signed by the Team and the authorities concerned of the Government of the Republic of El Salvador on the conditions that necessary budget will be allocated for the implementation of the Project by both sides, and that the schedule is subject to change within the framework of the Record of Discussions when necessity arises in the course of the implementation of the Project.

Done in duplicate in English and Spanish languages, respectively, each text being equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

San Salvador, August 28, 2000


上原 盛 毅

Mr. Seiki Uehara
Leader
Japanese Implementation Study Team
Japan International Cooperation Agency
Japan



Mrs. María E. Brizuela de Avila
Minister
Ministry of Foreign Affairs
Republic of El Salvador





Mr. Salvador E. Urrutia Loucel
Minister
Ministry of Agriculture and Livestock
Republic of El Salvador

Tentative Schedule of Implementation

I. Project Activities

Item / Year	1 st				2nd				3rd			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
1 Facilities / Equipment.												
2 Environmental monitoring for aquaculture.												
3 Social and economic survey on model communities.												
4 Anadara (<i>Anadara tuberculosa</i> , <i>Anadara similis</i>) culture. 1. Studies on the juvenile - adult stages: morphology, ecology and biology. 2. Studies on the larval stages: morphology, ecology and biology. 3. Study on experimental culture. 4. Method improvement.												
5 Oyster culture Local oyster(<i>Crasostrea iridescens</i>) . Introduced oyster(<i>Crasostrea gigas</i>). 1. Studies on the juvenile – adult stages: morphology, ecology and biology. 2. Studies on the larval stages: morphology, ecology and biology. 3. Study on experimental culture. 4. Intermediate harvest.												
6 Implementation of experimental culture and dissemination of technology in model communities.												
7 Basic survey and advice for marketing of shells.												
8 Development of the manual for shell culture technology.												
9 Preparation of final report.												

Anadara refers to curil (*Anadara tuberculosa*), curililla (*Anadara similis*), and casco de burro (*Anadara grandis*) . Local oyster refers to ostra (*Crasostrea iridescens*).

Tentative Schedule of Implementation

II . Technical Cooperation Program

Item / Year	1st				2nd				3rd			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
JAPANESE SIDE												
1. Dispatch of Experts.												
(1) Long - term experts:												
i . Chief Advisor.												
ii . Project Coordinator.												
iii . Experts in the fields of:												
- Anadara culture.												
- Oyster culture.												
(2) Short-term experts. (When necessity arises)		///	///			///	///			///	///	
2. Counterpart training in Japan. (Some persons annually)		///	///			///	///			///	///	
3. Provision of Equipment.												
4. Dispatch of survey missions. (When necessity arises)		///	///			///	///			///	///	
SALVADOREAN SIDE												
1. Assignment of Counterparts:												
i . Project Director.												
ii . Project Manager.												
iii . Project coordinator.												
iv . Chief of CREM.												
v . Biologist of Anadara culture.												
vi . Biologist of oyster culture.												
vii . Economist for community development.												
2. Assignment of administrative personal.												
3. Provision of land, building & facilities.												
4. Provision of running expenses.												

添付資料－ 1 : CENDEPESCA 局長書簡「実施協議調査団の協議アテンド」

8月17日付け

CENDEPESCA 局長から JICA 駐在事務所長宛書簡

「沿岸湖沼域養殖開発計画・実施協議調査団の来訪に伴い Lic. Reyna Pacheco が
コーディネーターとして協議のアテンドをする」



Direct.	Coord.	Coord.	Asesor	Asist.	Mensaj.

9

F
COPIA 2 Misión de Piscicultura

MINISTERIO DE AGRICULTURA Y GANADERIA
 REPUBLICA DE EL SALVADOR
 DIRECCION GENERAL DE DESARROLLO PESQUERO
 (CENDEPESCA)
 NUEVA SAN SALVADOR * TEL.: 228-1066

Santa Tecla, 17 de Agosto de 2,000.

Sr. Atsushi Kamishima
 Representante Residente JICA en EL Salvador.
 San Salvador.

Estimado Sr. Kamishima:

Tengo a bien informarle que con el objetivo de fortalecer la coordinación, seguimiento y gerenciación de los proyectos que cuentan con la cooperación japonesa, particularmente el proyecto **"Desarrollo de la Acuicultura en Estuarios de El Salvador"**, a partir del lunes 21 de agosto se crea una Unidad Específica de coordinación adscrita a la Dirección que conoceremos como la Unidad JICA/CENDEPESCA.

Estará bajo la Coordinación de la Lic. Reyna Pacheco de d'Aubuisson

Lo anterior forma parte de unos ajustes organizacionales internos acorde a la nueva política nacional de Desarrollo Pesquero.

Cordialmente.

DIOS UNION LIBERTAD



Mario González Racinos
 Mario González Racinos
 Director General.

"HACIA LA CONQUISTA DEL MAR Y EL DESARROLLO DE LA ACUICULTURA"

添付資料－２：CEDEPESCA 局長書簡「前進基地、C/P について」

2000 年 8 月 14 日

CENDEPESCA 局長マリオ・ゴンザレス・レシノスから上島駐在所長宛書簡

8 月 20 日からの「沿岸湖沼域養殖開発計画」の調査団につき、調査団の目的を達成する様準備しました。

懸案事項につき次の様にコメントします。

ウエットラボを建設する前進基地用地の取得について、このインスティテュートが購入する形で取得するよう手続中。レイナ・パチェコがこの手続を継続する。

2001 年以降、CENDEPESCA の技師として、プロジェクトの C/P として係わる。

先週火曜日 8 日の会議の議事録を添付する。

1. この協議は JICA 側：上島所長、新地企画調査員、布施専門家、高藤専門家、CENDEPESCA 側：マリオ・ゴンザレス局長、レイナ・パチェコ、ダリオ・ザンブラナの出席者で行われた。
2. 会議は添付の様に合意した。
3. CENDEPESCA 局長からの JICA の協力に対する謝辞及び 31 日に発表されるであろう新漁業政策の説明。
4. 別添 2 の布施専門家、松岡調整員と行った協議内容の確認。これは CENDEPESCA の技術的な業務に係わるコミュニケーションの強化、プロジェクトを進めていく上で、生じるであろう問題の解決が主題であった。この協議は技術職によって行われ、他の業務に優先して行われた。
5. JICA/CENDEPESCA プロジェクトの効率的な実施の為の CENDEPESCA 新体制の説明、レイナ・パチェコがコーディネーターとして来週以降の JICA との連絡を行う。
6. 上島所長は協力を継続的に行う事を表明した。
7. プロジェクト用地の取得について、CENDEPESCA が購入すると約束したピラジータの土地は、CENDEPESCA のアドミ担当のアントニオ・バリージャス氏から JICA が納得出来る価格で購入出来ると報告された。アドミ担当者は約 2 ヶ月で調達可能とした。
8. CENDEPESCA は JICA に対し土地の技術的仕様要望書の提出を要求した。これは、土地取得手続上で効果的に作用するからである。
9. C/P について CENDEPESCA と EL SALVADOR 大学の間で、2001 年 1 月から雇用する事で合意した。
10. CREM 改修費に付いて、前調査団の指摘した改修箇所について計画中有である。現在いくつかの箇所につき作業可能である。何点かについて次の調査団来訪時に確認したい。
11. ウエットラボの建設に付いて、2001 年予算の前倒しで CENDEPESCA の責任で行う。
12. 電話回線の増設に付いて、すでに申請中。アクセス道路の改修に付いてトリウンフォ市と協議中。電源トランスについて、必要容量を次調査団来訪次に確認したい。施設担当カンポ氏が CREM とウエットラボに付いて準備中。
13. 調査団が来訪した際の予定に付いて、JICA との協議、大使館表敬、外務省、農牧省-CRNDPESCA 表敬など調整中、サイト訪問とし、29 日午前中に R/D

署名予定。

14. プロジェクト実施の手続きに於いて、専門家派遣と機材供与のために A1～4 フォームが必要である。農務大臣署名の後速やかに外務省に回して欲しい。
15. 「零細漁業開発計画」開発調査に関し、作業執務室を用意する事。
16. 「開発調査関連」
17. プロジェクト目標を達成するために、精力的に実施された JICA-CENDEPESCA の協議を終わる。

Copia: Misión de Piscicultura

Direct.	Coord.	Coord.	Asesor	Asist.	Mens.
0					



MINISTERIO DE AGRICULTURA Y GANADERIA
REPUBLICA DE EL SALVADOR

DIRECCION GENERAL DE DESARROLLO PESQUERO
(CENDEPESCA)
NUEVA SAN SALVADOR * TEL.: 228-1066

0 0 0 2 3 4

Handwritten signature/initials

14 de agosto de 2000

Señor Atsushi Kamishima
Representante Residente JICA/JOCV en El Salvador
Presente.

Estimado Señor Kamishima:

Nos complace conocer la visita de la Misión Japonesa que estará en El Salvador a partir del próximo 20 de agosto, para continuar con la gestión del Proyecto "Desarrollo de la Acuicultura en los Estuarios de El Salvador". Nos hemos organizado para garantizar que la misión logre su objetivo.

En relación a compromisos pendientes de cumplir por parte de El Salvador, sobre esos le comento lo siguiente:

Al respecto aprovechamos para informarle que se avanza satisfactoriamente en la compra del terreno en el área de la Bahía de Jiquilisco donde se construirá el Laboratorio Húmedo, el cual se gestiona ser adquirido con la figura de compra por esta institución. La Licenciada Reyna Pacheco de d'Aubuisson le dará seguimiento a dicho trámite.

En relación al personal contraparte del Proyecto, éstos serán parte del personal técnico de CENDEPESCA a partir del 2001.

Deseo reiterarle nuestra mejor disposición para lograr los objetivos de tan importante proyecto.

Anexamos para su consideración la Ayuda Memoria de la reunión del pasado martes 8

Cordialmente.



DIOS UNION LIBERTAD

Handwritten signature of Mario González Recinos
Lic. Mario González Recinos
Director General

Cc: Sr. Ministro de Agricultura y Ganadería
Lic. Salvador Urrutia Loucel
E. S. D. O.

" HACIA LA CONQUISTA DEL MAR Y EL DESARROLLO DE LA ACUICULTURA "

AYUDA MEMORIA DE LA REUNION SOSTENIDA ENTRE JICA Y CENDEPESCA

DIA: MARTES 8 DE AGOSTO DE 2000

HORA: 9:00 A.M.

1. Se llevó a cabo reunión entre autoridades de JICA, CENDEPESCA y Técnicos de ambas instituciones, así, por parte de JICA, estuvieron presentes Sr. Atsushi Kamishima, Sr. Takahiro Shinchi, Sr. Yukihide Fuse, Cap. Yukinobu Takafuji; de CENDEPESCA Sr. Mario González Recinos, Sra. Reyna Pacheco de d'Aubuisson y Sr. Dario Zambrana.
2. La reunión se desarrolló conforme a la agenda adjunta.
3. El Director de CENDEPESCA saludó a los presentes expresando el beneplácito de trabajar conjuntamente con JICA, reiterando el agradecimiento por la Cooperación Financiera y Técnica que está aportando Japón e instó a trabajar como socios para lograr el objetivo del proyecto indicando que se harán todos los esfuerzos para disponer oportunamente de la contrapartida respectiva. Informó que se cuenta con una Política Nacional de Pesca que será dada a conocer el 31 del presente mes.
4. Se dieron a conocer los acuerdos de la anterior reunión sostenida con Sr. Fuse y Sr. Matsuoka resumidos en el anexo 2 de esta nota. En esa ocasión se mencionó el interés institucional de fortalecer la comunicación como un medio para tecnificar el trabajo de CENDEPESCA, por lo que se propuso definir medidas de seguimiento del proyecto, entre otras desarrollando sesiones de seguimiento conjunta con la cual se pueda conocer el avance del proyecto y prevenir el surgimiento de problemas. Estas reuniones reunirían al personal técnico ejecutor y preferentemente serían en los lugares de trabajo.
5. Se informó de una modalidad interna de organización de CENDEPESCA que se está preparando para una mejor ejecución, que entre otros temas considera ubicar al proyecto JICA/CENDEPESCA como una Unidad adscrita y dependiendo de la Dirección, con un profesional que directamente se haga cargo del seguimiento y coordinación en todas sus áreas, indicando que esa función recaería en la Lic. Reyna Pacheco de d'Aubuisson, lo cual se comunicaría a JICA por escrito la próxima semana.

6. El Sr. Kamishima expresó su voluntad de continuar la cooperación del proyecto y de unirse al nuevo esfuerzo institucional, particularmente en la sesiones de seguimiento.
7. En relación a la adquisición del terreno para el proyecto, ubicado en La Pirrayita, se expresó la voluntad de CENDEPESCA de cumplir con este compromiso, por lo que el Sr. Antonio Barillas de la Administración de CENDEPESCA informó que luego de las consultas realizadas es viable la figura de compra del terreno preseleccionado y que cuenta con la opinión satisfactoria de JICA. El Administrador mencionó que en dos meses se puede comprar dicho terreno.
8. A solicitud de la Dirección de CENDEPESCA la parte japonesa dará por escrito una opinión técnica del terreno que ya visitaron, para que a la vez sirva de amparo del proceso administrativo de la compra del terreno.
9. En relación a los contrapartes del Proyecto, estos serán parte del personal Técnico de CENDEPESCA a partir de enero del 2001, elaborándose también una carta de entendimiento entre CENDEPESCA y la Universidad de El Salvador.
10. En cuanto a la remodelación del CREM, hay recomendaciones hecha por la misión japonesa que vino anteriormente y se ha elaborado el presupuesto para llevar a cabo dichas modificaciones; en este momento se pueden hacer algunas actividades en dicho lugar con personal de Servicios Generales de la institución, pero se necesita de unos para definir el gasto general de la remodelación y cuando venga la misión tenerle respuesta más clara.
11. De parte de JICA preguntaron si dentro del Anteproyecto del Presupuesto 2001, se tienen contemplados los fondos para la construcción del Laboratorio Húmedo, respondiendo CENDEPESCA que sí han sido incluidos los fondos para dicha actividad.
12. Preguntaron también que si el CREM contará con otras líneas telefónicas, respondió que se solicitará una línea más; el relación a la calle de acceso, se gestionará ante la Alcaldía Municipal de Puerto El Triunfo; en cuanto al transformador de energía eléctrica se terminara de discutir con la Misión Japonesa que vendrá el 20 de agosto solamente se investigará el voltaje de línea que llega al CREM y La Pirrayita. Al Arq. Campos se le pedirá elabore un plano del CREM y del Laboratorio Húmedo.
13. En el punto 3 de la agenda se revisó la programación de actividades a realizar para cuando llegue la misión, quedando dentro de la calendarización reuniones con JICA, Embajada de Japón, Relaciones Exteriores, MAG-CENDEPESCA, visitas al campo y la firma del R/D , el 29 de agosto por la mañana .

14. Es importante continuar con la gestión del Proyecto de Acuicultura, para ello es necesario completar los formularios de la Forma A1 y A4, en los que el Gobierno de El Salvador solicita a Japón 4 Expertos y Equipos y Materiales para ejecutar el proyecto y llevarlos a firma del Sr. Ministro de Agricultura, para luego presentarlos a Relaciones Exteriores lo más pronto posible.
15. Para la próxima visita de la Misión Japonesa que vendrá en septiembre a trabajar con el Proyecto "Estudio de Desarrollo de la Pesca Artesanal", es importante definir el espacio para montar la oficina de ellos, en la que se les apoyará con la logística necesaria para que puedan trabajar en un ambiente adecuado, al respecto se ha solicitado apoyo al Gerente Administrativo del MAG para instalarlos en el lugar apropiado.
16. CENDEPESCA aprovechó para informar del nuevo modelo de Co-gestión que se impulsará a partir del 1 de septiembre en el Muelle de Pesca Artesanal de Acajutla, solicitando a la vez a los Expertos Japoneses la recomendaciones que tuviesen a bien proporcionar, ya que han desarrollado actividades en ese lugar.
17. Al cerrar la reunión JICA y CENDEPESCA ofrecieron sus mejores esfuerzos para poner en marcha un esquema operativo que haga lograr los objetivos del proyecto.

**AYUDA MEMORIA DE LA PRIMERA REUNION ENTRE JICA Y
CENDEPESCA.
14 DE JULIO DE 2000.
10.00 a.m.**

I.- OBJETIVOS.

- ◆ Un primer diálogo sobre la cooperación japonesa en el área de la pesca de El Salvador.
- ◆ Identificar e impulsar mecanismos que garanticen la apropiada ejecución de los proyectos.

II. PARTICIPANTES.

- ◆ Por JICA:

Señores: Dr. Fuse y Dr. Matsuoka.

- ◆ Por MAG-CENDEPESCA.

Darío Sambrana, Reina Pacheco, Luis Salazar, Elsy de Hernández, Mario González.

III. PRINCIPALES CONCLUSIONES.

- ◆ Procurar llevar un mayor seguimiento del proyecto.
- ◆ Desarrollar sesiones de seguimiento una vez al mes.
- ◆ Se propuso el martes 15 de agosto la primera reunión, preferentemente en el Puerto El Triunfo.
- ◆ Se discutió de las contrapartidas que están atrasadas, particularmente la adquisición de un terreno en la Bahía de Jiquilisco y la incorporación de personal contraparte.
- ◆ Se dio a conocer el programa de voluntarios japoneses recibiendo la sugerencia de identificar áreas potenciales.
- ◆ En similar forma se recomendó identificar opciones de proyectos.
- ◆ Se consideró conveniente revisar la actual organización del proyecto dentro de CENDEPESCA.

**REUNION CON
LA AGENCIA INTERNACIONAL DE COOPERACIÓN
INTERNACIONAL DEL JAPÓN Y CENDEPESCA.
8 DE AGOSTO DE 2000**

PUNTO 1: SALUDO. ENFOQUE DE POLÍTICA A SEGUIR.

-NACIONAL

-INSTITUCIONAL.

**-JICA/CENDEPESCA: SOCIOS PARA EL
DESARROLLO PESQUERO.**

PUNTO 2. LA SITUACIÓN ACTUAL DE LOS PROYECTOS

-CENDEPESCA/JICA.

-ORGANIZACIÓN INTERNA A SEGUIR.

-CASOS ESPECIFICOS.

PUNTO 3: PROXIMAS MISIONES.

PUNTO 4: VARIOS.

添付資料－３：エル・サルヴァドル外務省の R/D 署名に関するプレスリリース」

エル・サルヴァドル外務省の R/D 調印の関する HP 用
プレスリリース（仮約）

プロジェクトは 600 世帯以上に寄与する。

「エル・サルヴァドルと日本はウスルタンの貝類の増殖改善に関する、協議議事録に調印した。」

エル・サルヴァドル、日本両政府はヒキリスコ湾の漁業に携わる人々に寄与するであろう貝類開発に関する「沿岸湖沼域養殖開発計画」の実施協議議事録に署名した。

議事録にはエル・サルヴァドル政府代表として外務大臣マリア・エウヘニア・ブリスエラ・デ・アビラ女史、農牧大臣サルヴァドール・ウルティア・ロウセル氏が、日本側は調査団団長上原盛毅氏が署名した。

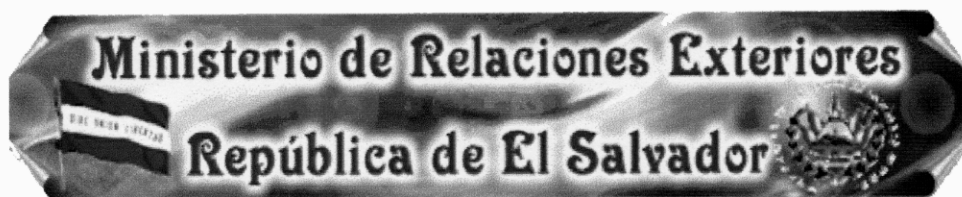
このプロジェクトは日本政府の資金により JICA を通じ専門家派遣、機材供与、研修を含む技術協力として行われる。

この事により、ヒキリスコ湾の貝類の育成が行われ、600 世帯以上の生活レベルの向上が見込まれ、特に女性と子供たちの就労条件改善が期待される。

プロジェクトはヒキリスコ湾の養殖開発の基本計画に基づき行われ、期間は 3 年間で、当該湾のコミュニティで赤貝、在来種カキ、導入種カキの生産が向上されるであろう。

そして同時に、在来種カキ、導入種カキの育成基礎技術が確立され、また、CENDEPESCA の職員の貝類養殖に関する技能が向上されるであろう。

これは CENDEPESCA で行われ、活動計画を評価する機関の合同委員会を発足し、プロジェクトの年次活動を確認し、また、他の担当者と共に技術協力に関する意見交換を行う。



BOLETÍN DE PRENSA No 291 / 2000
San Salvador, 28 de agosto de 2000.

Proyecto beneficiará a más de 600 familias

EL SALVADOR Y JAPON FIRMAN MEMORANDUM DE ENTENDIMIENTO PARA MEJORAR EL CULTIVO DE MOLUSCOS EN USULUTAN

Los Gobiernos de El Salvador y Japón firmaron este día el Memorándum de Entendimiento para el Proyecto "Desarrollo de la Acuicultura en los Estuarios de El Salvador", el cual tiene como propósito el desarrollo de los moluscos en la Bahía de Jiquilisco, departamento de Usulután, lo que vendrá a beneficiar a las personas que se dedican a la pesca en dicha zona.

El documento fue firmado por los Ministros de Relaciones Exteriores, Licenciada María Eugenia Brizuela de Avila, y de Agricultura y Ganadería, Ingeniero Salvador Urrutia Loucel, en representación del Gobierno de El Salvador, y por el Jefe de la Misión Japonesa, Doctor Seiki Uehara.

Dicho proyecto será financiado por el Gobierno del Japón a través de la Agencia Japonesa de Cooperación Internacional (JICA), que proporcionará cooperación técnica que incluye expertos, equipo y capacitación.



De izquierda a derecha: el Jefe de la Misión Japonesa, Doctor Seiki Uehara; Canciller María Eugenia Brizuela de Avila; y el Ingeniero Salvador Urrutia, Ministro de Agricultura y Ganadería

De esta manera se mejorará la calidad de vida de más de 600 familias que se dedican al cultivo de moluscos en la zona, generando fuentes de empleo principalmente para las mujeres y los jóvenes en sus horas libres.

El proyecto comprende un Plan Maestro para el desarrollo de la acuicultura en la Bahía de Jiquilisco,

<http://apaneca.rree.gob.sv/sitio/sitio.../9cbc002765cdc798062569490053e94d?OpenDocumen> 28/08/00

durante un período de 3 años, el cual permitirá aumentar la producción de moluscos como la Anadara (curil, curillilla y casco de burro), la Ostra local y la Ostra introducida en las comunidades de la Bahía.

Asimismo, se establecerán las tecnologías básicas del cultivo de las especies nativas y ostra introducida y se mejorará la capacidad técnica del personal de CENDEPESCA sobre el cultivo de los moluscos.

La entidad ejecutora será el Centro de Desarrollo Pesquero (CENDEPESCA) y se creará un Comité Coordinador Conjunto que se encargará de evaluar los planes de trabajo, revisar las actividades anuales del proyecto e intercambiar opiniones sobre temas de la cooperación técnica, entre otras responsabilidades.



UNIDAD DE COMUNICACIONES



Relaciones político diplomáticas / Promoción y Relaciones Económicas
Cooperación Externa / Atención a los Salvadoreños en el Exterior

添付資料－ 5 : CENDEPESCA の調査団受入計画

MINISTERIO DE AGRICULTURA Y GANADERIA
CENTRO DE DESARROLLO PESQUERO

CENDEPESCA の調査団受入計画

JICA - CENDEPESCA

PROYECTO

" Desarrollo de la Acuicultura en los Estuarios de El Salvador"

Nueva San salvador, 21 de Agosto de 2000

**MISIÓN JAPONESA SOBRE EL PROYECTO
"Desarrollo de la Acuicultura en los Estuarios de El
Salvador".**

I.-Saludo

Señores de Misión Japonesa:

Reciban una fraternal bienvenida y un amistoso saludo de parte de la Dirección y Personal del CENDEPESCA y del Sector Pesquero de El Salvador. Esperamos que su estadía en el País sea agradable, placentera y se logren los objetivos esperados.

Por CENDEPESCA les atenderemos los Señores siguientes:

Dario Zambrana	MAG/ODE
Reyna Pacheco de D.	Biólogo
Luis Salazar Linares	Biólogo
Elsy de Hernández	Biólogo
Antonio Barillas	Administrador
Francisco Campos	Arquitecto
Mario González Recinos	Economista

Además otras personas que se incorporarán acorde al desarrollo de la Agenda.

II.- Nueva Política de Ordenación y Desarrollo Pesquero.

A partir del pasado 3 de julio ha comenzado una nueva etapa de dirección de CENDEPESCA y entre otros propósitos se tiene como metas:

- a) Fortalecer la comunicación estratégica como medio de desarrollo institucional.
- b) Tecnificar el trabajo institucional para dar mayor soporte a las orientaciones y normativas del sector pesquero de El Salvador.
- c) Mejorar la ejecución de los proyectos de apoyo.

Lo anterior se pretende lograr con una amplia estrategia de participación tanto del personal de CENDEPESCA, los pescadores artesanales, los industriales, los acuicultores y otros organismos que en una u otra forma intervienen en las actividades pesqueras.

En este marco se ha preparado una nueva política nacional de desarrollo de la pesca y la acuicultura que será dada a conocer públicamente el 1 de septiembre próximo y la cual la presentaremos a Uds.

III.- Ajustes de Organización Interna.

La nueva Política considera en principio unos ajustes organizacionales del CENDEPESCA, para ir perfeccionando la estructura interna que permita llegar a una nueva naturaleza, preferentemente autónoma.

Particularmente, a partir del 1 de septiembre se creará internamente la Unidad JICA/CENDEPESCA con el propósito de fortalecer la coordinación y generación del Proyecto “Desarrollo de la Acuicultura en los Estuarios de El Salvador” y de otros proyectos o actividades que se impulsen con la Cooperación Japonesa. Es una Unidad que estará adscrita a la Dirección de CENDEPESCA.

IV.- Acciones para resolver los Compromisos de Contrapartida.

CENDEPESCA hace esfuerzos para fortalecer su rol de socio del proyecto y de la cooperación japonesa, por lo que en relación a la contrapartida del Proyecto por iniciar su ejecución, se tienen los siguientes avances de contrapartida:

- Se hacen las gestiones para la adquisición del terreno para el Laboratorio Húmedo en la Bahía de Jiquilisco esperándolo disponer del terreno en el mes de octubre próximo.
- El personal técnico de contrapartida se contratarán a partir de Enero de 2,001, pero ya se tienen seleccionados, proviniendo de personal recién graduado de la Universidad Nacional.
- Se ha elaborado el presupuesto para llevar acabo las modificaciones del Centro Regional de Ecosistema de Manglares en el Triunfo Depto.Usulután.
- Se tiene programados los fondos en el presupuesto del 2001 para la construcción del Laboratorio Húmedo en la Isla de la Pirrayita, Bahía de Jiquilisco depto.Usulután.
- Se está gestionando líneas telefónicas con el objetivo de fortalecer la comunicación telefónica y electrónica. Se pretende tener una base electrónica en el Puerto El Triunfo como parte de una red de comunicación nacional.

Se comenzará a mejorar la calle de acceso al CREM y se inicia esta semana una organización local para ordenar el servicio del muelle y así garantizar una mejor desarrollo institucional.

V.- Conclusiones

Le expresamos a la Misión y a todas las personas de la Cooperación Japonesa, la disposición y voluntad de CENDEPESCA de hacer todos los esfuerzos para que como socios de un mismo objetivo, logremos los resultados esperados.

Asi también los agradecimientos por la cooperación financiera y técnica que estamos recibiendo y que con toda seguridad es una variable de apoyo para la nueva Política Pesquera Nacional.

Jornada de la Misión:

FECHA	HORA	ACTIVIDAD
Domingo 20 de agosto	17:49	Llegada a El Salvador
Lunes 21 de agosto	9:00 a.m. 10:00 a.m. 11:00 a.m. 15:30 p.m.	Visita de cortesía a JICA Visita de cortesía a Embajada del Japón (pendiente) Visita de cortesía a MIREX Visita de cortesía a CENDEPESCA ✓
Martes 22 de agosto	8:30 a.m. 14:30 p.m.	Reunión con CENDEPESCA Visita de cortesía a Ministro de Agricultura y Ganadería ✓
23 y 24 de agosto	8:00 a.m.	Reunión Equipo Técnico de CENDEPESCA ✓
Viernes 25 de agosto	8:00 a.m.	Visita a El Triunfo, salida al campo (al laboratorio del Centro Regional de Estuarios y Manglares)
Sábado 26		Regreso a San Salvador para discusión de trabajo, sobre la información de campo ✓
Lunes /28	8:00 a.m.	Reunión con CENDEPESCA ✓
Martes/29	9:30 a.m. 15:00 p.m. 16:00 p.m.	Firma de Minuta de Proyecto (pendiente) Presentación Informe Final a JICA (pendiente) Presentación Informe Final a Embajada de Japón (pendiente)
Miércoles/30	9:00 a.m.	Salida de San Salvador

Lista de Asistencia de la Misión Japonesa, representantes de Agencia de Cooperación Internacional del Japón (**JICA**) en El Salvador y de Personal de CENDEPESCA que participaran en las reuniones a efectuarse en la semana del 22 al 30 de Agosto de 2,000.

Tema: Proyecto DESARROLLO DE LA ACUICULTURA EN LOS ESTUARIOS DE EI SALVADOR

Misión Japoneses

Nombre Firma	Cargo
1-Seiki Uehara	Jefe de la Misión, Asesor Técnico Especialista
2-Shozo Tomiyasu Japón.	Especialista Administración y Cooperación Pesquera. Ministerio de Agricultura, Silvicultura y Pesca Del
3-Masahiro Hasegawa Ambiente.	Asesor especialista en la Dirección Del Proyecto. Div. Medio Ambiente y Piscicultura, Depto. Medio
4-Yukihide Fuse	Experto JICA /MAG.
5-Yukinobu Takafuji	Experto JICA/ CENDEPESCA.
6-Keiko Suzuki	Interprete

CENDEPESCA

1- Mario González Recinos	Director General
2-.Reina P. de d'Aubuisson	Enlace Unidad JICA/CENDEPESCA
3-Dario Zambrana	Enlace JICA/MAG.
4-Luis Salazar	Técnico Pesquerías
5-Elsy de Hernández	Técnico Pesquerías
6- Antonio Barillas	Gerencia Administrativa.
7- Francisco Campos	Jefe Logística

前進基地用地に必要な要件

11 de Agosto de 2000

Lic. Mario González Reciones
Director General
CENDEPESCA

Atentamente le remito la información técnica sobre las diferentes vistas que se efectuaron en la Bahía de Jiquilisco en ocasión de la llegada de la misión de JICA liderada por el Ing. Hiroshi KITANI, que nos visitó en marzo recién pasado.

El objetivo de estas visitas fue la de indentificar un lugar idóneo para la investigación que se requiere para el cumplimiento del proyecto que estaremos ejecutando el próximo año denominado “ Desarrollo de la Acuicultura en Estuarios de El Salvador” .

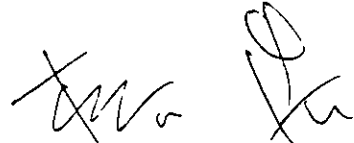
Dentro de los compromisos firmados en la minuta de entendimiento entre Japón y El Salvador, se establecen algunos requisitos técnicos que debe cumplir el terreno donde se construirá el Laboratorio Húmedo; son las siguientes:

- Debe estar a la orilla de la playa , ya que se utilizaran lanchas y equipo de bombeo que lleve agua al laboratorio húmedo.
- Debe estar cerca de agua limpia de mar, condición básica para el éxito de los diferentes sobre la vida de ostras y conchas.
- La altura del terreno debe ser apropiada, para evitar inundaciones en caso de tormentas.
- Debe estar a orilla de playa para instalar la tubería de descargo de los desechos del laboratorio y mantener el medio ambiente limpio.
- Abastecimiento constante de energía eléctrica, en este caso es muy importante este servicio ya que se contará con el equipo básico para realizar las distintas actividades de campo sobre el cultivo de moluscos.
- Debe contar con agua dulce, servicio básico para actividades diarias del personal a trabajar en el lugar seleccionado.
- El agua del mar del canal experimente el flujo y reflujo de las mareas para asegurarnos que el agua esté bien oxigenado y limpia.
- Debe existir movimiento rápido del agua del mar, ya que nos asegura la fuente de alimento pra ostras.

El lugar seleccionado, entre otros terrenos, que cumple con todos los requisitos técnicos anteriormente descritos es el terreno propiedad de la Sra. María Candelaria Mejía Leiva,

ubicado en la Lotificación La Pirrayita, Isla San Sebastián, Jurisdicción de San Dionisio,
Departamento de Uslután.

Cordialmente.



Ing. Hiroshi KITANI
Jefe del Equipo Japonés para
el Estudio Suplementario
JICA/ IFIC

添付資料-7 : R/D に外務大臣が署名する旨の通知



MINISTERIO DE HACIENDA
DIRECCION GENERAL DE INVERSION Y CREDITO PUBLICO

Dr. Oscar Zamora
FORMA NO. 113
(1285-9600)
288.4660

R/D に外務大臣が署名する旨の通知

DIGF/016/00

San Salvador, 23 de agosto de 2000

Dirección General de Inversión y Crédito Público.

Asunto: Opinión al Memorandum de Entendimiento, relativo a la Cooperación Japonesa para el proyecto "Desarrollo de la Acuicultura en los Estuarios de El Salvador".

Licenciado
Ricardo Cardona Alvarenga
Director General de Cooperación Externa
Ministerio de Relaciones Exteriores
Presente

Post-it [®] Transmisión por Fax 7671		FECHA DATE 28/08/00	N.º DE PAGINAS 1
PARA/TO <i>Lic. Cardona</i>	DE/FROM <i>Lic. Aguilar</i>		
DIRECCION	COMPANIA/CCO.		
DEPARTAMENTO/DEPT.	TELEFONO/FONELO		
FAX 203-3687	FAX 376-3621		

Estimado Licenciado Cardona:

Hago referencia a nota RR.EE./DGCE/481/2000 recibida el 17 de agosto de 2000, por medio de la cual solicita a esta Secretaría de Estado, opinión sobre el borrador del Memorandum de Entendimiento entre el Equipo Japonés de Estudios de Ejecución y Las Autoridades Involucradas del Gobierno de la República de El Salvador con la Cooperación Técnica Japonesa para el proyecto: "Desarrollo de La Acuicultura en los Estuarios de El Salvador".

Al respecto, comunico a Usted que hemos examinado el citado documento, principalmente en lo que se refiere a las exenciones fiscales, sobre las cuales no tenemos objeciones, ya que son responsabilidades que el Gobierno puede asumir de conformidad a las leyes vigentes en esta materia, y a los fondos de contrapartida, los cuales serán asumidos por el Ministerio de Agricultura y Ganadería, por lo que, nuestra opinión es favorable para que se firme dicho convenio y se continúe con el trámite correspondiente para su ratificación en la Asamblea Legislativa con el propósito de que las exenciones fiscales surtan efecto.

JMA/nab



DIOS UNION LIBERTAD

Dinora Margarita Castro U.
DIRECTORA

DIRECCION GENERAL DE INVERSION Y CREDITO PUBLICO
Financ. de Los Heroes # 1231, San Salvador
Teléfonos 225-1022 ó 225-3700



MINISTERIO DE RELACIONES EXTERIORES

*Atencion:
Lic. Rene
Pacheco de
D. Abuisson
228-0074*

MEMORANDUM

AJ/ANT/No. 638

PARA: SEÑOR LICENCIADO
RICARDO CARDONA ALVARENGA
DIRECTOR GENERAL DE COOPERACION EXTERNA

DE: ANNETTE REBECCA BERRIOS DE GONZALEZ
DIRECTORA DE LA UNIDAD DE ASÉSORIA JURIDICA

ASUNTO: REMITIENDO OPINION

FECHA: 23 DE AGOSTO DE 2000



Atentamente me dirijo a Usted, con el propósito de trasladar opinión de esta Asesoría Jurídica relativa al proyecto de Memorándum de Entendimiento a suscribirse entre el Gobierno de El Salvador y el Japón, relativo al proyecto "Desarrollo de la Acuicultura en Zonas Estuarinas de El Salvador".

- Primeramente es preciso señalar que independientemente de quien firme el Memorándum de Entendimiento éste deberá someterse a ratificación de la Asamblea Legislativa por contemplar exoneración de impuestos y demás obligaciones que como Gobierno se deben otorgar, por lo que podría firmarlo la Señora Ministra ó el Ministro de Agricultura y Ganadería, otorgando la autorización de Plenos Poderes para el Ministro Urrutia si fuera el caso.
- Es preciso consultar con el Ministerio de Hacienda las exoneraciones de impuestos como el de la renta por ejemplo.
- En relación a los privilegios e inmunidades a otorgar a los japoneses, aunque estén solicitando los mismos que se les conceden a expertos que desempeñan iguales trabajos en nuestro país, debe consultarse con la Dirección General de Protocolo y Ordenes.

エ国外務省法務局より海外援助局宛通知書

- ・ R/D には外務、農牧両大臣が署名する。
- ・ 免税、免責その他の特権事項は R/D が議会承認を経た後有効となる。

- Numeral III, 6, entenderíamos que el MAG de donde depende CENDEPESCA, será el cubra esos compromisos u obligaciones, al igual que 7 (1) y (3), sugiriendo que se especifique cuales son los gastos corrientes a que se refiere.
- Numeral VI, Consultar con el Ministerio de Seguridad Pública y Justicia. En nuestra opinión esta disposición no debería ser aceptada pues nos estaríamos haciendo cargo (como gobierno) de reclamos que surjan aún cuando se refleje mala conducta o negligencia de los expertos japoneses.

Sin más sobre el particular, aprovecho la ocasión para saludarle.

前進基地用地を CENDEPESCA の特別活動費で購入する旨の通知



MINISTERIO DE AGRICULTURA Y GANADERIA
REPUBLICA DE EL SALVADOR

DIRECCION GENERAL DE DESARROLLO PESQUERO
(CENDEPESCA)
NUEVA SAN SALVADOR * TEL.: 228-1066

23 de agosto de 2000.

Lic. José Mauricio Aguiluz
Director de Inversión y Gestión Financiera
Ministerio de Hacienda
San Salvador.

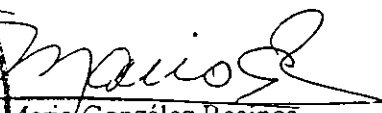
En atención a Memorandum de Entendimiento a suscribirse por funcionarios de Japón y El Salvador, el próximo lunes 28 de agosto de 2000, el Ministerio de Agricultura y Ganadería, a través del Centro de Desarrollo Pesquero le reiteran el compromiso de asumir la responsabilidad de proveer los recursos de contrapartida para el Proyecto "DESARROLLO DE LA ACUICULTURA EN LOS ESTUARIOS DE EL SALVADOR", los cuales serán cubiertos en especie con el presupuesto del presente año e incluidos dentro del anteproyecto de presupuesto hasta el año 2001.

Es oportuno manifestarle que la compra del terreno para el Proyecto, en la Bahía de Jiquilisco, se efectuará con fondos provenientes del Fondo de Actividades Especiales de CENDEPESCA, los cuales se encuentran en trámite.

Con toda consideración y estima.

DIOS UNION LIBERTAD




Mario González Recinos
Director General.

cc. Señor Ministro de Agricultura y Ganadería
Señor Viceministro de Agricultura y Ganadería
E.S.D.O.

" HACIA LA CONQUISTA DEL MAR Y EL DESARROLLO DE LA ACUICULTURA "

前進基地用地の見積もり

Usulután, 14 de agosto de 2000.

Señor Director General
Centro de Desarrollo Pesquero
Santa Tecla.

Estimado Señor:

Yo, MARIA CANDELARIA MEJIA LEIVA, de generales conocidas, mayor de edad, salvadoreña, originaria de Usulután, con Cédula de Identidad Personal No.05-01-0029919 y NIT- No. 1123-130259-101-0, por este medio me comprometo formalmente con esa Institución, ha celebrar contrato de compra - venta de un inmueble rústico de mi propiedad, situado en la Isla San Sebastián, jurisdicción de San Dionisio, Departamento de Usulután, determinado como Lote No.1 del Polígono "M" de la lotificación La Pirrayita, el cual tiene una capacidad superficial de 439.0 Mts.2, equivalente a 628.13 Vrs.2.

En relación a lo anterior, les expreso que el precio del lote antes mencionado es de SETENTA Y CINCO MIL 00/100 COLONES (¢75,000.00), considerándose como precio único. El tiempo límite que ofrezco para formalizar este contrato es de 45 días hábiles a partir de esta fecha.

Atentamente.



María Candelaria Mejía Leiva

添付資料－11：購入手続きに必要な日数表

購入手続きに必要な日数表

PROCESO EN LA ADQUISICION DEL TERRENO			
PASOS	UNIDAD RESPONSABLE	DESCRIPCION DEL PROCESO	TIEMPO PROMEDIO
1	UNIDAD SOLICITANTE	ELABORA SOLICITUD DE COMPRA ADJUNTANDO CONDICIONES TECNICAS	2 DIAS
2	ADMINISTRACION	REALIZA INVESTIGACION DE DISPONIBILIDAD FINANCIERA PARA DETERMINAR FACTIBILIDAD DE COMPRA	1/2 DIA
3	ADMINISTRACION	CONTACTA CON PROPIETARIO DEL INMUEBLE PARA VERIFICAR SU UBICACIÓN	1 DIA
4	ADMINISTRACION	VERIFICA MEDIDAS Y UBICACIÓN DEL TERRENO Y DESCRIPCION TECNICA	1 DIA
5	LOGISTICA	ELABORA PLANO REAL DEL TERRENO	2 DIAS
6	ADMINISTRACION	SOLICITA OFERTA DEL TERRENO	2 DIAS
7	DIRECCION	SOLICITA AL MINISTRO DEL RAMO RESOLUCION DE COMPRA DEL TERRENO	5 DIAS
8	ADMINISTRACION	SOLICITA FOTOCOPIA DE ESCRITURA DEL TERRENO, CEDULA DE IDENTIDAD PERSONAL NIT, SOLVENCIA DE IMPUESTOS FISCALES Y MUNICIPALES,	5 DIAS
9	ADMINISTRACION	VERIFICA EN REGISTRO DE PROPIEDADES LA PROPIEDAD DEL TERRENO Y SOLICITA SOLVENCIA	4 DIAS
10	COMISION DE COMPRA	ANALIZA OFERTA Y PUJA EL PRECIO DEL TERRENO	1 DIA
11	COMISION DE COMPRA	DETERMINA LA COMPRA DEL TERRENO Y LEVANTA ACTA Y EMITE RESOLUCION DE COMPRA	1 DIA
12	DIRECCION	SOLICITA APROBACION DEL MINISTERIO DE HACIENDA	8 DIAS
13	DIRECCION	SOLICITA ANTE FISCALIA COMPRA DEL TERRENO EN CUESTION	4 DIAS
14	ADMINISTRACION	ELABORA DOCUMENTO DE COMPROMISO FISCAL	1 DIA
15	UNIDAD CONTABLE MAG	ANALIZA DOCUMENTOS QUE AMPARAN LA COMPRA, AUTORIZA Y REGISTRA CONTABLEMENTE	3 DIAS
16	JURIDICO	ELABORA ESCRITURA DE COMPRA -VENTA DEL TERRENO	5 DIAS
17		TERRENO COMPRADO	<u>50 dias</u>